

就任のごあいさつ

飯山市教育長 松木 英文



このたび、飯山市教育長を拝命いたしました、松木英文と申します。

飯山市では少子高齢化の波がますます進み、幼稚園・保育園、小・中学校の児童・生徒数が減っていくだけでなく、各集落のお祭りなどその地域ならではの行事や、公民館活動などでも担い手が不足しがちです。これまで当たり前のように行ってきた各地域の社

会教育・社会体育につながる活動も、今までのようにはできなくなっている状況は、大きな課題であると感じています。

そんな中、子どもから大人まで、学校教育だけでなく社会教育も含めた、すべての地域住民のための教育行政をどのように行っていけばよいか、大事な課題だと思っています。

特に、昨年度道筋をつけていただいた、小学校や中学校の統合を見据えた「新たな学校づくり」を、大きな喫緊の課題として進めていかなければなりません。

この「新たな学校づくり」に向けて取り組んでいく過程では、学校教育における「学力向上」に加えて、グローバルな時代を担う人材育成のた

めの「外国語教育」・「ICT教育」など教育内容のさらなる充実と、それが十分に可能になる学校施設等の整備に取り組みたいと考えています。

また、飯山市の地域の課題として冒頭で挙げた児童生徒数の減少や地域の担い手の育成につながる「ふるさと学習」も、学校教育の中では大事な取り組みの一つで、この「ふるさと学習」を中心に各地域の社会教育・生涯教育のよい方向も、併せて見出し

ていきたいと思っています。近隣の地域住民が顔を合わせ語り合う機会も少なくなっているときだからこそ、地域コミュニティの活性化に大事な役割を果たす「ふるさと学習」の社会教育や学校教育に

飯山市教育委員会構成

(令和3年4月～)

教育長	松木 英文
教育長職務代理者	吉越 邦榮
教育委員	西條 三香
教育委員	小林 輝紀
教育委員	平野 弘蔵

「小学生も正受庵やお寺に興味をもってくれれば」マンガ版「正受老人物語」を市へ寄贈

3月22日(月)、臨済宗妙心寺派正受庵より「正受老人物語」マンガ版2000冊を飯山市に寄贈いただきました。



足立市長に冊子を寄贈する正受庵の小菅宗真住職

諱をきっかけに、飯山市の大切な宝である正受庵と正受老人の功績を後世に残すため正受庵で制作を進めていたもので、活字版の正受老人物語を原作として、編集に飯水教育会の吉澤秀さん(前・常盤小学校校長)の協力でのほど完成しました。

この日、市役所に訪れた正受庵の小菅宗真住職は、「この冊子をきっかけとして、正受庵だけでなく、飯山市のお寺にも興味を持っていただければ大変うれい。50年後の世に残すことができるものができると思う」と話



マンガ版正受老人物語はオールカラー版で小学生からでも理解しやすい構成となっています。

足立市長は、「子どもだけでなく、大人にもわかりやすく編集いただき、飯山市の大切な宝である正受庵を正しく理解してもらえらると思う。良い冊子が完成したので、小学生だけでなく多くの市民の皆様にも見ていただきたい。」と話しました。

大人も子どももスキーを楽しんで!

飯山市民にスキーに親しんでもらおうと、3月7日には戸狩温泉スキー場で「2021 市民レクリエーションスキー大会」、3月21日には長峰クロスカントリーコースで「2021 市民スキーフェスティバル」が飯山市スポーツ協会の主催で開催されました。

どちらのイベントもタイムの速さだけを求める通常の競技とは異なり、幼児でも楽しむことができる競技構成で企画され、両日とも晴天のもと、多くの市民がスキーを楽しみました。



市民レクリエーションスキー大会



市民スキーフェスティバル

果たす役割をもしっかりと見据えながら、「新たな学校づくり」という飯山市の教育課題解決に向けていきたいと思っています。

四季折々の変化が美しい、私の大好きな飯山市の「子どもから大人までの地域住民」のための教育行政に、これまで教育に携わってきた経験で最大限に生かして、力不足ではありますが精いっぱい務めさせていたたくつもりです。

市民の皆さんのご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

市内小中学校の校長先生・教頭先生紹介

◆小学校

○ 秋津小学校 校長 三井 康幸	○ 飯山小学校 校長 堀 正則	○ 泉台小学校 校長 上原 新治	○ 常盤小学校 校長 江守 義和	○ 戸狩小学校 校長 武居 敦子	○ 東小学校 校長 大日方 良彰	○ 木島小学校 校長 小林 英一	○ 城北中学校 校長 須山 直昭	○ 城南中学校 校長 小田切 浩一	○ 城北中学校 教頭 西澤 直樹	○ 城北中学校 教頭 大塚 永利子	○ 城北中学校 教頭 宇佐美 昌博	○ 城北中学校 教頭 藤澤 賢也
------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------	------------------	-------------------	-------------------	------------------

人権学習シリーズ

人権擁護委員会をご存じですか?

長野地方務局飯山支局長 関 弘規

人権擁護委員は、市町村長の推薦を受けて法務大臣から委嘱されますが、給与は支給されず、民間ボランティアの立場で、人権相談を受けたり、人権の考えを広めたりする活動に法務局とともに携わっている方々です。

事が生じ、どこに相談したらよいか迷ったら、まずは人権擁護委員会を頼ってみませんか。相談は無料で、秘密は厳守されますので、一人で悩まずお気軽に御相談ください。

当支局における人権擁護事務の管轄は、6市町村(飯山市、中野市、山ノ内町、栄村、木島平村、野沢温泉村)で、委員総数26名のうち、飯山市の人権擁護委員は6名です。

なお、人権擁護委員は、年間を通じ、法務局の常設相談所(飯山支局 ☎62・2302)や「みんなの人権110番(0570・003・110)」、「子どもの人権110番(0120・007・110)」、「女性の人権ホットライン(0570・070・810)」のほか、市内各所で開設する特設相談所等でも相談を受け付けています。相談日等の詳細については、広報紙「広報飯山」に掲載のほか、飯山支局(62・2302)までお問い合わせください。

人権擁護委員の経歴は様々ですが、その経験を生かし、相談者のお気持ちに寄り添いながら、セクハラやパワハラ、家庭内暴力やいじめ、インターネットでの誹謗中傷、差別などの人権相談を受け、その悩みの解決のため、最善の方法を一緒に考えます。

日々の生活の中で悩み